

環境に配慮した栽培技術

～ グリーンな栽培体系への転換サポート事業～

○生分解性マルチと有機配合肥料等を用いた環境に配慮した栽培技術を紹介します。

・生分解性マルチ

土壌中の微生物の働きによって、水と二酸化炭素に分解される農業用マルチです。栽培終了後のマルチのはぎ取り作業や廃棄物処理が不要となり、環境に優しく省力的な資材です。



使用時



使用後

・有機配合肥料

有機質の原料を主体として配合した肥料です。速効性の肥料と緩効性・遅効性の有機質肥料を組み合わせることで、肥料の効きが早く長く持続します。有機質が含まれているので、化成肥料単独の肥料よりも肥料焼けがしにくく、土壌の物理性の改善にも繋がります。

・堆肥

堆肥には一定量の肥料成分を含みます。土づくりとあわせ、適切に施肥設計を行うことにより、化学肥料の使用量を低減できます。

参考 家畜ふん堆肥の含有成分割合(例)

堆肥名	現物あたり成分量(%)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
牛ふんオガクズ堆肥	0.6	0.8	0.7
鶏ふんオガクズ堆肥	1.5	2.5	1.5
乾燥牛ふん	1.6	1.9	1.4
乾燥鶏ふん	3.6	4.0	2.2

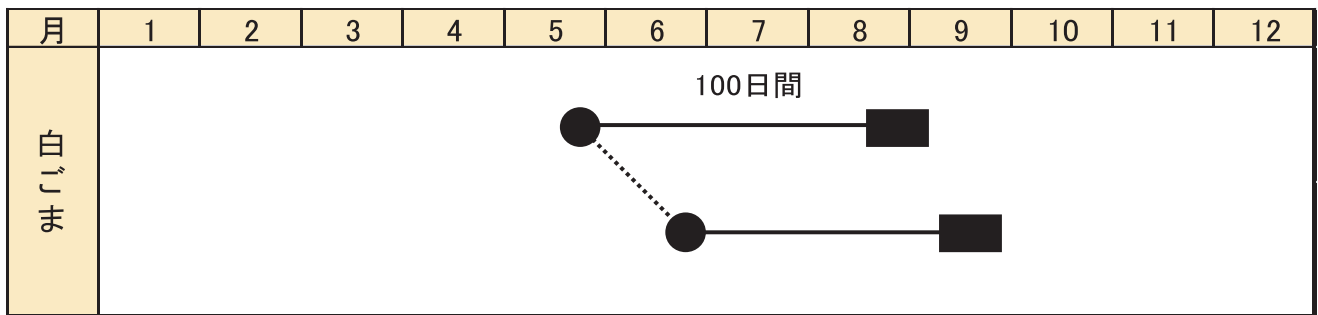


鶏糞堆肥

注) 土壌肥料対策指針(改訂版),

平成31年3月, 和歌山県農林水産部

白ごま栽培指針



注) ●: 播種 ■: 収穫期 栽培積算温度: 約 2,000 度 = 20℃ × 100 日

- 品 種 白ごま
- 播 種 5月中旬～6月下旬。発芽適温は25～30℃
生育適温は25～35℃。
※雑草の発生抑制にマルチ被覆を推奨(除草剤使用不可)
- 種 子 量 約100～120g／10a
※直播きで1穴に2～3粒程度を播き、軽く覆土(5mm以内)
本葉が2枚展開したころに間引き(切断)を行い、1本仕立てにする
- 栽植密度 畝間:45cm 条間:30cm 株間:30cm
- 施 肥 例(10a当り)

肥料名	施肥量	元肥	追肥
完熟牛糞堆肥	1,000kg	1,000kg	—
苦土セルカ2号	50kg	50kg	—
発酵鶏糞	150～200kg	150～200kg	—

※注意点

- 化学合成農薬および化学肥料は使用しない。
- 水はけが悪い園、水田で栽培する場合は高畝にする。
- 深播きは発芽不良となるので覆土は薄く(5mm以内)。
- 発芽後1か月の除草作業が大切。間引きの際に連動して行う。
1回目: 草丈 5～10cmのころ
2回目: 草丈15～20cmのころ
- 交雑しやすいので、同じ畑で別の品種を混植しない。
特に黒ごま、金ごま、近くで別の色目の品種を栽培しない。
前年の種子が残っていて発芽する場合もあるので注意。
- 刈り取りは、下のさやが開き始めるころ(開花後約50日)
開いてからの刈り取りは、粒が落ちやすいため、適期に収穫する。
収穫後の乾燥は必ずさを上向きにして脱粒を防ぐようにする。

たまねぎ栽培指針

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マルチ栽培					■				●		▲	

注) ●: 播種 ▲: 定植期 ■: 収穫期

- 品 種 レッドグラマー
- 播種準備 8月中旬から太陽熱や土壌消毒剤を用いて土壌消毒を行う。
苗床面積: 30～40㎡。
あらかじめ石灰、堆肥を散布し、pH6.3～7.0に調整する。
- 播 種 9月中旬(目安は9月15日～20日)。
すじまきの場合: 10cm 間隔に8mm の溝をつくり均一に播種する。
ばらまきの場合: 床面をよくならし、均一にばらまきする。
覆土はバーク堆肥で種子が見えなくなる程度に行う。
発芽まで乾燥しないように注意し、発芽後も適宜かん水する。
- 種 子 量 4～6dl／10a
- 栽植密度 畝幅: 150cm 条間: 10cm 株間: 10cm 8条植え 25,000本／10a
- 定 植 葉の分岐点より深植えしない。気温が8℃以下になると根の生育が劣るため、適期に定植し、厳寒期までに十分に根を張らせる。
- 収 穫 茎葉が80％程度倒伏した頃に収穫する。
倒伏してからも肥大するが、大きくしすぎると商品価値が低下する。
収穫の際は圃場で乾燥させ、根つきのままコンテナに入れる。

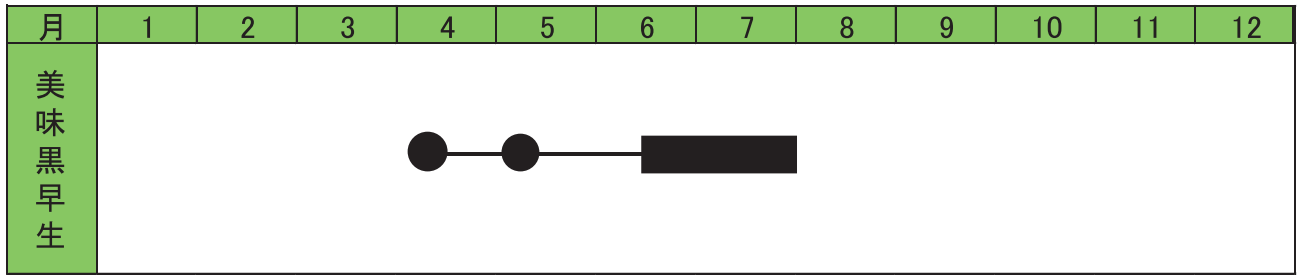
●施 肥 例(10a当り)

肥料名	施肥量	元肥	追肥
紀北川上果樹粒状配合	120kg	120kg	—
セルカ	100kg	100kg	—
BMヨーリン	60kg	60kg	—
エースユーキ	2,000kg	2,000kg	—

※注意点

- 早まきは大苗となり抽苔しやすくなる。また、遅まきは小苗になり収量が低下する。
育苗期間は50～60日なので定植日から逆算して播種する。
適期の播種と育苗、定植を心がける。
- 9月中旬の播種時期は、日中の温度が高く、乾燥しやすい。発芽まで土壌の水分を十分に保つ(発芽までの日数は約7日)。
- 定植時の苗の大きさは、葉数3.5～4枚、草丈20～30cm、葉鞘部の太さ5～7mm程度。
乾燥時には活着促進のためにかん水を行う。

黒枝豆栽培指針



注) ●: 播種 ■: 収穫期

- 品 種 美味黒早生枝豆
- 播 種 4月下旬～。発芽適温は25～30℃
生育適温は20～25℃。
※早期播種では、防寒対策(トンネル・被覆資材)を施す。
4月初旬のは種では、地温の上昇のためにマルチ被覆が効果的
- 種 子 量 4～6リットル／10a
※直播きで1ヶ所に2～3粒播きとし、本葉2～3枚時に2本株仕立てにする。
- 栽植密度 畝幅:135cm 条間:60cm 株間:30cm

●施 肥 例(10a当り)

肥料名	施肥量	元肥	追肥
アヅミン	80kg	80kg	—
セルカ	100kg	100kg	—
BMヨーリン	40kg	40kg	—
紀北川上果樹粒状配合	80kg	80kg	—
有機化成A23号	20kg	—	20kg

※注意点

- 収穫時期が遅くならないように5月10日までに播種を終える。
- 元肥は、播種2～3週間前に施用する。
- 肥料分のある(残っている)園では無肥料とする。
- 水はけが悪い園は高畝にする。
- 播種後土壌が過湿状態では種子が腐敗する可能性がある。
- 追肥は開花時期に施用し、除草を兼ねて中耕機で土寄せを行う。
- 灌水は開花時期から行い、さやの発育を促す。
- カメムシ防除を徹底する。
- 収穫は開花後30～40日が目安
収穫が遅れると子実が硬くなり風味が悪くなるので注意する。
- トンネル・マルチ栽培を行う場合は高温に注意する。